

令和4年6月27日

会員の皆様へ

妊婦への新型コロナウイルスワクチン接種に関する積極的勧奨の再度のお願い

日本産科婦人科学会  
理事長 木村 正  
新型コロナウイルス感染対策委員会  
委員長 川名 敬

新型コロナウイルス感染が続く中、周産期医療にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。第6波以降、新型コロナウイルス新規感染者数は減少の一途でありましたが、令和4年6月第3週からは全国の新規感染者数が増加に転じており、今後も増加することが懸念されます。

妊婦は、新型コロナウイルス感染症の重症化リスクがあることや、新型コロナウイルス感染妊婦の管理や分娩方法について制限がある医療機関が多いことから、新型コロナウイルスに感染しないためのワクチン接種や感染予防の啓発は依然として重要です。

新たに国内外から、妊婦への新型コロナウイルスワクチン接種は、母体の重症化と周産期死亡率の減少に寄与することや妊婦への接種の安全性が疫学的に示されております。以下に、最近、公表された報告をまとめました。

まだ新型コロナウイルスワクチン接種を済ませていない妊婦に対して、改めてワクチン接種をお勧めしていただきたく、お願い申し上げます。先生方の日常診療において、ワクチンの必要性、安全性を説明する際に参考にいただければ幸いです。

#### 【論文・発表】

- (1) 本会周産期委員会、周産期における感染に関する小委員会；国内でのCOVID-19妊婦レジストリ報告(2022.5月5日まで)では、中等症II以上の新型コロナウイルス感染者は、全てワクチン未接種だった。

[https://www.google.com/url?q=https://www.jsog.or.jp/modules/news\\_m/index.php?content\\_id%3D1221&source=gmail-imap&ust=1655366720000000&usg=AOvVaw1j8qwDUhhdqeZj1cZt4vb-](https://www.google.com/url?q=https://www.jsog.or.jp/modules/news_m/index.php?content_id%3D1221&source=gmail-imap&ust=1655366720000000&usg=AOvVaw1j8qwDUhhdqeZj1cZt4vb-)

- (2) 本会周産期委員会、周産期における感染に関する小委員会：妊婦へのWEBアンケート調査(2021.10-11月)においてワクチン接種後の副反応と産科的症状の出現がまとめられた。妊婦における副反応の出現は既報の妊婦や非妊婦の同じ年代の女性ほぼ同等であった。産科的症状としては、1回目接種後1.65%、2回目接種後2.98%の妊婦に腹緊(お腹の張り)をみとめた。出血、胎動減少、浮腫、血圧上昇、破水のような重大な症状がみられたのは1%以下であった。

[https://www.jsog.or.jp/news/pdf/2022\\_COVID19\\_questionnaire\\_research.pdf](https://www.jsog.or.jp/news/pdf/2022_COVID19_questionnaire_research.pdf)

Komine-Aizawa S, et al., The vaccination status and adverse effects of COVID-19 vaccine among pregnant women in Japan in 2021., J Obstet Gynaecol Res. 2022 May 10. doi: 10.1111/jog.15285

- (3) 米国：2020.12月から2021.7月までにFDAで承認された新型コロナウイルスワクチンを1回または2回接種した妊婦45232人を調べた。医学的処置が必要となった急性有害事象の発生率は1%未満であった。ワクチン未接種妊婦と比較すると、発熱、倦怠感または疲労、局所反

応、リンパ節腫脹またはリンパ節炎は有意に多かったが、その他の有害事象は増えなかった。新型コロナウイルスワクチンは、妊婦への接種による医学的処置が必要な急性有害事象のリスクを上げるものではなかった。

Malini DeSilva M, et al, Evaluation of Acute Adverse Events after Covid-19 Vaccination during Pregnancy, *N Engl J Med*, 2022 Jun 22. doi: 10.1056/NEJMc2205276.

- (4) スイス： 2021年3月1日から12月27日の間にmRNAワクチンを少なくとも1回接種した妊婦の初期有害事象と周産期アウトカムについて解析した。妊娠中にmRNA COVID-19ワクチン接種後、局所および全身への影響が報告されたが、重篤な事象はまれであった。妊娠中にワクチン接種を受けた女性は、産科集団のバックグラウンドリスクに関する過去のデータと比較して、妊娠や新生児の有害事象が高くなることはなかった。

COVID-19 mRNA vaccine in pregnancy: Results of the Swiss COVI-PREG registry, an observational prospective cohort study. Favre G, et al., *Lancet Reg Health Eur*. 2022 May 29;18:100410. doi: 10.1016/j.lanepe.2022.100410.

- (5) 米国： 2020.12月から2021.6月までCOVID-19ワクチンを受けた4万人の妊婦の妊娠後期合併症、早産や発育遅延は見られなかった。

Receipt of COVID-19 Vaccine During Pregnancy and Preterm or Small-for-Gestational-Age at Birth – Eight Integrated Health Care Organizations, United States, December 15, 2020–July 22, 2021, Lipkind HS, et al., *MMMR Weekly*, January 7, 2022/71(1);26–30.

- (6) イスラエル： 新生児24,288人のうち16,697人の母親が妊娠中にワクチン接種されていた。ワクチン接種と未接種の妊婦から出生した新生児を比べると、新生児入院、先天性異常、乳児死亡の発生率に有意差は認められなかった。

*JAMA Pediatr*, 2022 Feb 10. doi: 10.1001/jamapediatrics.2022.0001

以上